

**シンポジウム「生物多様性とライフスタイル  
～新しい日常に向けてわたしたちができること」**  
**2021年3月6日(土)14:00～16:30 オンライン開催**

## **趣旨説明**

**環境省生物多様性戦略推進室**

**竹原真理**

# 目的

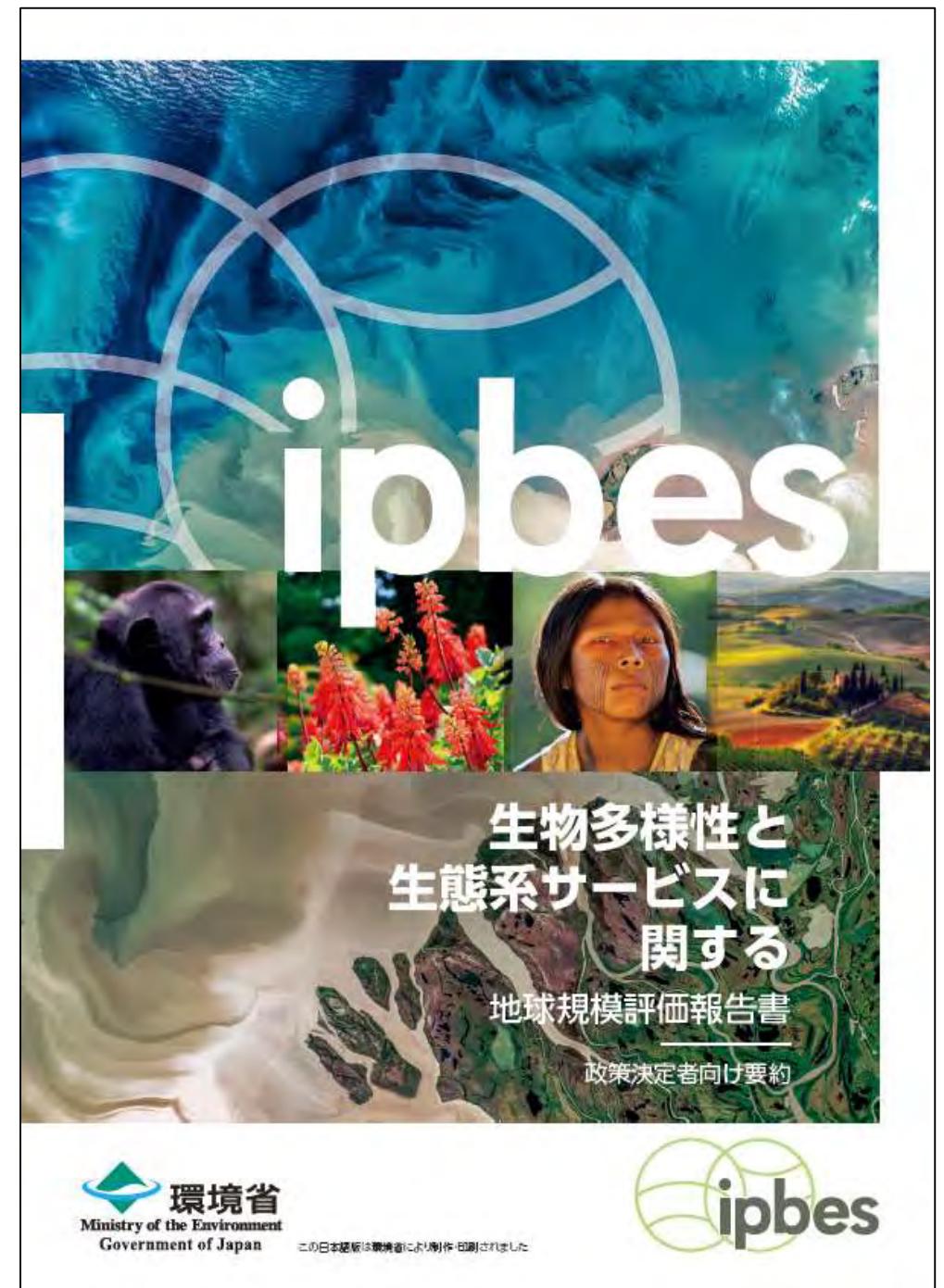
## 「生物多様性とライフスタイル ～新しい日常に向けてわたしたちができること」

生物多様性の保全と持続可能な利用の観点からの  
**社会変革**に向けて次のことを考える。

- 普段の生活の中で一人ひとりが実践できること
- そして、一人ひとりの行動の後押しをすること

# 背景

- 2012年IPBES(イプベス)設立  
生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム
- 生物多様性や生態系サービスの現状や変化を科学的に評価し、政策提言を含む報告書を作成  
(生物多様性版のIPCC)
- 2019年5月  
地球規模評価報告書のSPM  
(政策決定者向け要約)



# IPBES地球規模報告書のポイント

## 【現状・傾向】

○自然や自然の寄与 (nature's contribution to people) が世界中で劣化し続けている。

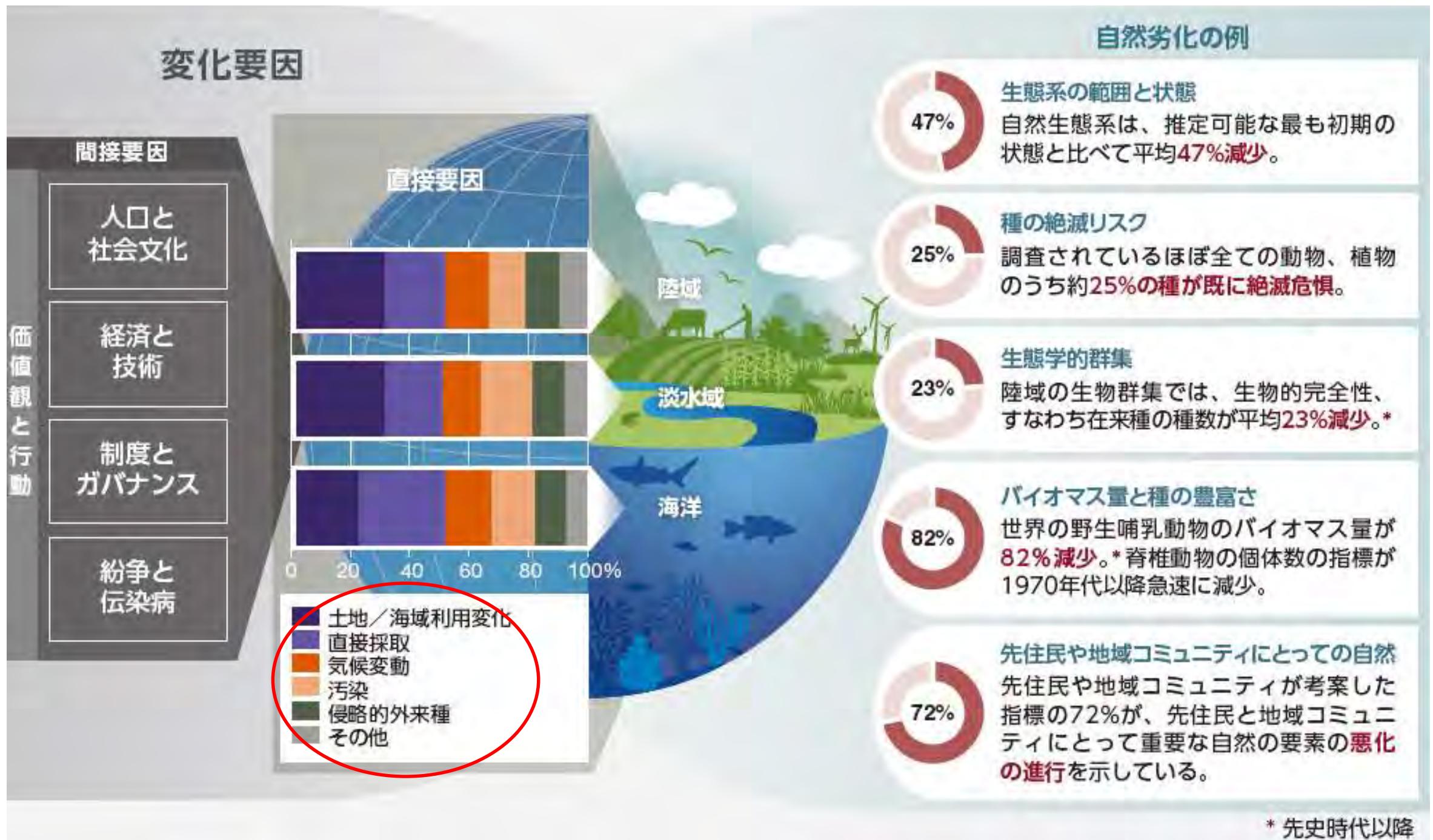
○人類史上これまでにないスピードで生物多様性が減少。



⇒この背景には、様々な人為的要素がある。

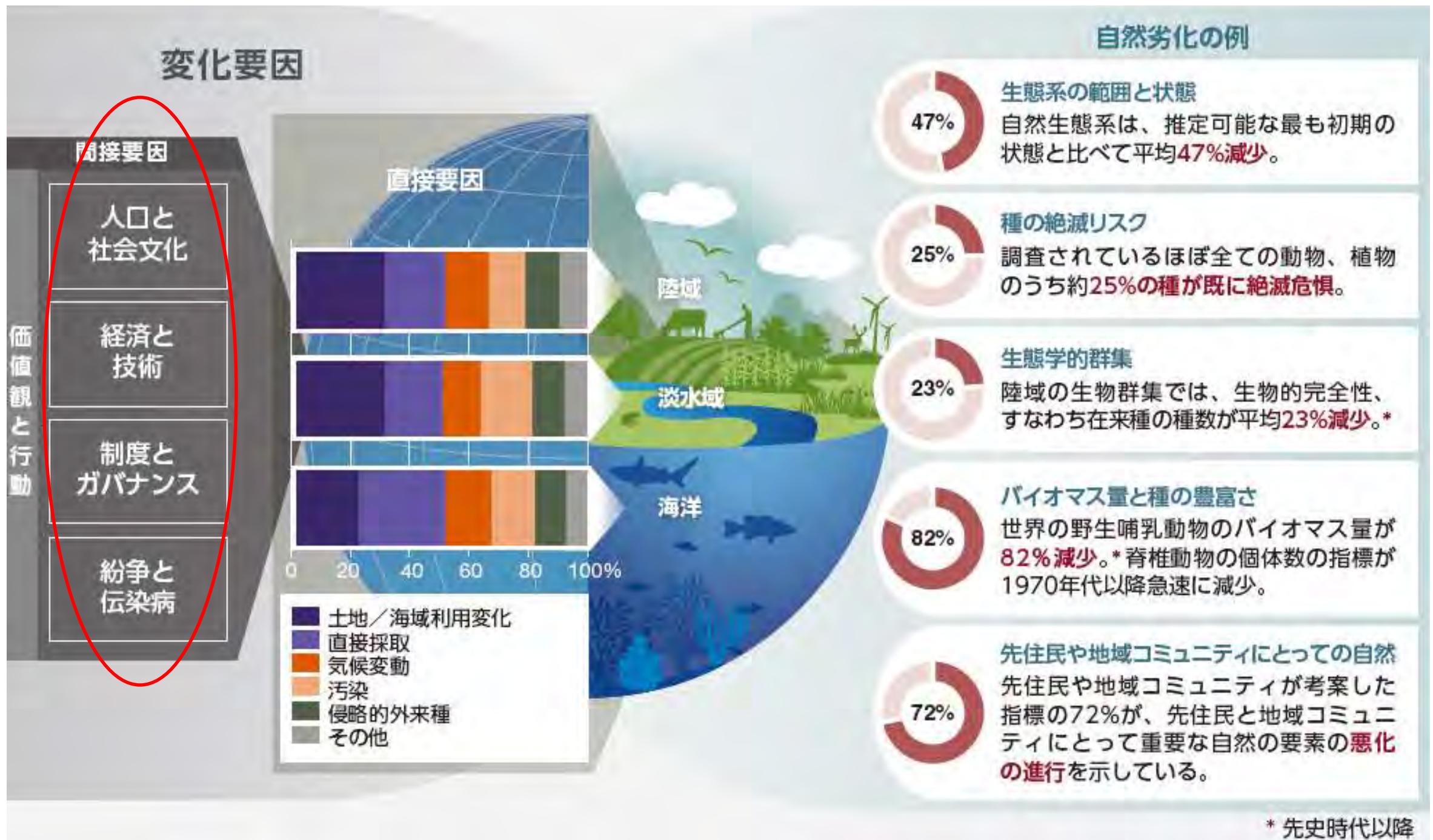
直接的な要因(影響の大きい順)は、

- ①陸域・海域の利用の変化、②生物の直接採取、③気候変動、④汚染、⑤外来種の侵入



間接的な要因は、

- ①人口と社会文化、②経済と技術、③制度とガバナンス、④紛争と伝染病



- 地球規模での生物多様性の損失要因は、特定の開発行為等の個別の事象ではなく、社会・経済の問題。
- 「**社会変革(Transformative Change)**」の必要性を指摘。



# この図で特に大事なところ

## 価値観と行動

特に介入点(レバレッジ・ポイント)で適用される、統合的、順応的、情報に基づく、包摂的なガバナンスアプローチ (スマートな政策の組み合わせを含む)

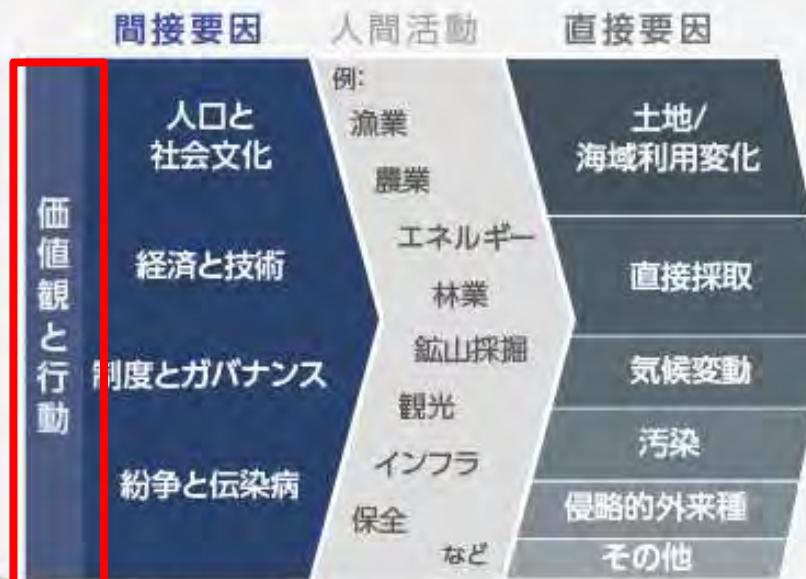
複数主体による  
ガバナンスの介入(レバー)



- インセンティブと能力強化
- 部門横断的な協力
- 先制行動
- 強靭性(レジリエンス)と不確実性を考慮した意思決定
- 環境法とその実施

介入点(レバレッジ・ポイント)

- 豊かな暮らしについての多様な観念(ビジョン)の受容
- 消費と廃棄の総量の削減
- 価値観と行動の解放・拡大
- 不平等の是正
- 保全における正義と包摂性の実践
- 外部性とテレカップリングの内部化
- 環境にやさしい技術、革新と投資の確保
- 教育および知識の形成と共有の促進



反復学習の  
ループ

# 目的

生物多様性の保全に向けて、一人一人が価値観や行動を変えていくために

- 生物多様性と健康の関係性等について最新の科学的知見を共有する。
- 事例や生物多様性保全に必要な個人の行動変化に関する科学的知見を共有する。
- 参加者が、個人としてできることについて考えるきっかけとする。
- 次期生物多様性国家戦略の策定に向け、登壇者及び参加者からの意見を聴取する場とする。

# プログラム

## 基調講演 「「自然と共生する世界」の実現に向けた社会変革」

武内 和彦 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長

## 事例報告① 「生き物の豊かな環境が育む健康～明らかになりつつある生物多様性と健康の科学的な関係～」

曾我 昌史 東京大学大学院農学生命科学研究科・准教授／東京大学卓越研究員

## 事例報告② 「ゆっくり、いそげ～一つ一つのいのちを大事にする地域づくり～」

影山 知明 クルミドコーヒー／胡桃堂喫茶店 店主

## 事例報告③ 「行動経済学とナッジを生物多様性保全に活かす」

佐々木 周作 東北学院大学経済学部 准教授

## 事例報告④ 「みんなでつくる自然共生社会～行動変容に向けた NGO やユースの取り組み～」

矢動丸 琴子 Change Our Next Decade 代表

## 事例報告⑤ 「誰でもいきもの調査隊員～AIを使った生物同定アプリとその活用～」

藤木 庄五郎 株式会社バイオーム 代表取締役

## 事例報告⑥ 「小さな自然再生とオープンなデータと緩やかな環境自治区」

三橋 弘宗 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員

## パネルディスカッション 「意識と行動の変化を後押しするために」

ファシリテーター

山口 真奈美 一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会 代表理事

# ポスト2020生物多様性枠組・次期生物多様性国家戦略策定に向けた流れ



国連生物多様性の10年

2010

## 生物多様性条約COP10@愛知県名古屋市

- 愛知目標(戦略計画2011-2020)採択
- 名古屋議定書採択



2012

## 生物多様性国家戦略2012-2020閣議決定

持続可能な開発目標(SDGs)



気候変動COP21「パリ協定」

2015

## IPBES第7回総会(フランス・パリ)

「地球規模評価報告書政策決定者向け要約」の承認

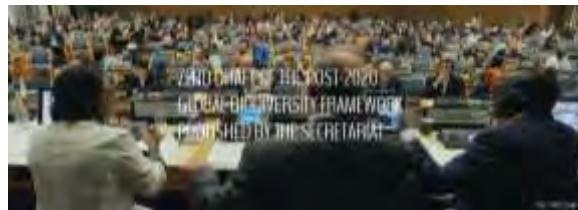


2019

2020

## ポスト2020生物多様性枠組の検討

- ・ 公開ワーキンググループ (OEWG)
- ・ 地域別ワークショップ
- ・ テーマ別ワークショップ
- ・ パートナー組織による会合
- ・ 文書での意見募集
- ・ 条約補助機関会合
- ・ 愛知目標の最終評価 (GB05) 等



## 次期生物多様性国家戦略の検討

- ◆ 次期生物多様性国家戦略研究会
- ◆ 学会、NGO、関係団体等との意見交換

## 戦略2012-2020最終評価

2021

COP15(中国・昆明)  
ポスト2020生物多様性枠組の採択



次期生物多様性国家戦略  
の策定